

『竹取新聞』でも掲載している「室礼（しつらい）」に関して
昨年実施した社内インタビューのご紹介です。
日々の暮らしや行事の参考になれば幸いです。

一月
正月

元旦には「歳神様」という新年の神様が、1年の幸福をもたらすために各家庭に降臨するとされています。

—明けましておめでとうございます。今年も「」ンタビューを通して、
審査についてお聞きして顶いたと想つてます。ありがとうございます。

お前、もういいやつだ、本年もよろしくお願いします。

富前子丑寅・・・の十一枚で二十九一番目です。これが前回や

す。ちなみに前回の子年となる12年前を思い出すと、私はちょうどカグヤに入社した年になるんです。

—12年前を振り返るというのは面白いですね。私は18・19歳位で大学生でした。

短いような気がします。

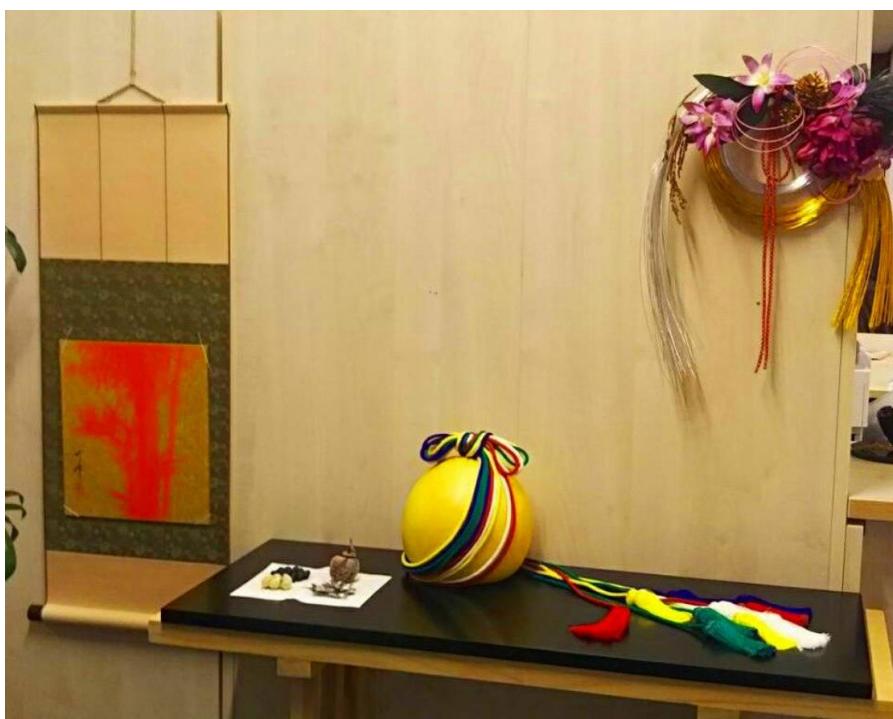
一本当ですね。今年はカグヤのクリスマスカードにねずみのスタンプを作つて、押印する新たな試みもしましたね！



の室礼

正月飾り
晩白柚

晚白柚は、丸い形を神楽鈴に見立て、柑橘の「きつ」が「吉」に通じ、形が大きい程「大吉」に繋がると考えられているため、「大吉となりますように」の願いを込めています。



宮前 そうですね、スタンフは園の先生方にも馴染みやすいと思いますし、取り入れやすいように感じますね。お正月は、初詣やおせち料理、鏡餅、年賀状など他の月に比べると、身近で馴染み深い行事だと感じます。

一本当ですね。改めてですが、1月は人日（じんじつ）の節供と呼ぶようですが初めて聞きました。「人日」とは、どういう意味なのでしょうか？

宮前「人日」とは、五節供の1番目の節供で陰曆1月7日のことをいい、お正月最後の日に一年の豊作と無病息災を願い、七草粥を食べる風習のことと言います。

一七草粥を
のですね！

宮前 はい。旬の活き活きした植物である七草を粥にして食べると、自然界か

きがでかるとやがており、かつては前田

前回セミナーの件についてが多

のに苦労します。
一見た目では、どれがどれだか分から
ないですね。

一確かに、お正月はぐ馳走やお酒を頂く機会も多いですからね！

つたので、まな板に並べて見ました。左から、

ハコベラ・ゴギョウ・スズシロ（大根）セリ・スズナ（かぶ）・ナズナ・ホトケノザだと思います。

われます。（左下写真）

一七草粥が、年初めの節供というのは知りま

せんでしたが、謂れを聞くと、今年の味わいが変わって来そうです。

宮前 そうですね。

一毎年、干支に合わせた盛り物がされていましたね。

宮前 はい、2018年の戌年の時は、お供えしていた田作り（じまめ）を、別のクルー

が犬の口にのせ、「犬が食べている」ように見立てて、遊び心が加わっていました一笑

一食べている様子を表していたのですね！

何で鼻の上に載せていたのだろうと思っていました！

宮前 2016年の申年の時は、赤い「くく

り猿」と、「喜び来る」の「嘉来」に通じる

「コロ柿」に、豊穰や子孫繁栄を願う「田作

り（だまめ）。勝利に通じる「勝ち栗」と、

「黒豆」には「豆豆しく達者で」と健康を願

いました。室礼のお稽古で意味を学び、こう

の中に鼎立てを持つこと。」などと先生も

仰っていましたが、自分自身が求めている

のは、知識や意味の解釈ではなく、元々の

日本人らしい生き方を自分の中に落とし

込んで、未来へと繋いでいくことだからこそ、室礼をする時も、働く姿勢においても、

先人や自然に習って本質を守った挑戦を大事にしていきたいと思っています。

一そういう想いで室礼に取り組まれているのですね。

宮前 以前から、家庭や職場など日の前に子どもがいるわけではないので、保育のこと

とがあまりよく分からないと話すことも多かったのですが、最近、年中行事や室礼を含め「暮らし」と「保育」はむしろ繋がっていると思えてきました。

一それはどういう感じでしょうか？

宮前 朝から夕方近くまでという一日の大半を園で過ごす子どもにとって、生活や暮らしのものが保育だと感じ、以前から暮らしを大事に取り組んできた私たち力

一意味を知ると、毎年干支が変わる楽し

みもありますね！

宮前 歳神様をお迎えする意味で大掃除をしたり室礼をしたりしていますが、そんなおもてなしの気持ちや感謝、尊敬の気持ちを大切にした上で、こんな風に楽しむ心もやっぱり忘れてはならない感

じています。

一大事なことですね。

宮前 お稽古の中で、先生から「立つ」についてお話をありました。

一どういうお話だったのでしょうか？

宮前 門松も寝かせず立てているが、「立てる」ことは、天（神仏）と地（私たち）が結び繋がるということ。そんな

風に自分の中に神様をもって立てるかどうかで「結び」になるか、単なる「飾り」になるかがわってくる。日本の神

様は「客神」であり、私たちは訪れる神様をお待ちしているわけで、そういう根

一話を聞くだけではなく、自ら取り組んでみて初めて分かることですね。

宮前 そうですね。「神仏と向き合ったり、そこへの感謝がないと、カタはあってもカタチにはならない。自分の心

グヤにできる」ということがもっとあるような気がしているのです。私自身、日々の暮らしは勿論のこと、当初間接的な仕事だと思っていた社内環境づくりや古民家「聴福庵」での色々な仕事の積み重ねのおかげで、頭ではなく腹落ちしながら、保育と暮らしが繋がったのは大きく、そういう意味では、また子年からはじまるこれからの一2年は「暮らし」をテーマにしたもののが、直接的な仕事となるような可能性を感じています。

一一日々の積み重ねがあつて繋がりが生まれたのですね！

宮前 古典の『大学』に「修身齊家治国平天下」とありますが、まず自分を修め、家庭を整え・・・というように、自分の暮らしが変わることで家庭や職場が変わり、保育が変わり、国の平和に繋がることもあるではと密かに思っています。

一そうですね！

宮前 カグヤも忙しい中でも、圧倒的にこ



七草

左から、ハコベラ・ゴギョウ・スズシロ（大根）セリ・スズナ（かぶ）・ナズナ・ホトケノザ

底にあるものを変えてはいけない。デザインは変わっていくものだが、本質

は守っていくこと、というようなお話を

でした。

一なるほど、深いお話ですね。

宮前 確かにそう考えてみると、昨年クリスマスの飾りつけを行いましたが、それと室礼ではどちらがいい悪い

という意味ではなく、意味合いが全然違うことを感じます。

一本当ですね。

宮前 その中で「守っていきたいその本質が分かるにはどうしたらよいのか？」という疑問もわいてくるのですが、これこそ、自分で体得していくものであり、自分の頭や手を動かして心をこめることで、そのものの本質に近づけるような気がしています。

一話を聞くだけではなく、自ら取り組んでみて初めて分かることですね。

宮前 そうですね。「神仏と向き合ったり、そこへの感謝がないと、カタはあってもカタチにはならない。自分の心

これまでと何かが違うと思っています。変わ

り目は大変ですが、そういう意味では、カグヤは先陣を切って変わることも役割だと思います。切り拓いて、次の世代が安心して進める道づくりをしている認識でいれば、少し大変なことも承知の上ですから、大変だけど楽しんでいけばいいし、大丈夫な気がします。

一すじい意気込みですね！

宮前 新年としていい流れで、やつてみたいことや希望が見えるのは良いことですし、ありがとうございます。そう思うと、昨年のやり残しがあってもそのお陰で今年に繋がるものがあり、時代の変化も応援しているように、やっぱりこれまでとステージが変わつて来ている気がしています。

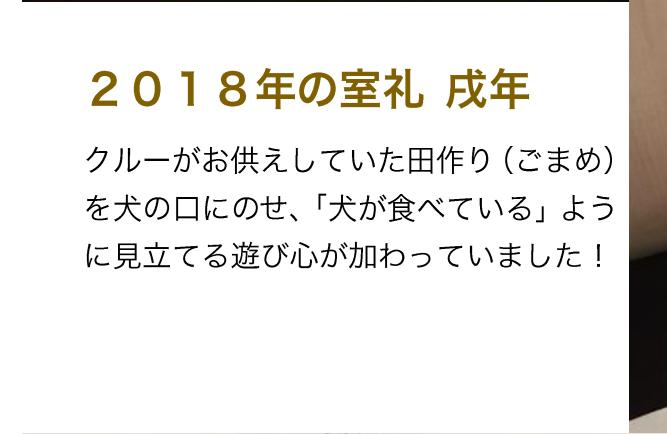


宮前さんご実家の畑で咲いた水仙の花を社内に飾ってくれました！



2016年の室礼 申年

赤い「くくり猿」
コロ柿
田作り
勝ち栗
黒豆



2018年の室礼 戌年

クルーがお供えしていた田作り（ごまめ）を犬の口にのせ、「犬が食べている」よう見立てる遊び心が加わっていました！



2020年の室礼 子年

ねずみの置物
お屠蘇

